

# 都市の多様性と イノベーションの創出に 関する懇談会

2019年2月19日（火）

千葉大学大学院園芸学研究科

秋田 典子

# 2000-2020における都市環境の変化

## 近代都市計画の抜本的な見直しの必要性

→都市計画制度のOS自体のバージョンアップ

もはや「近代」ではないことを示す多様な論説と

「近代」の特性を示す論説を俯瞰

### 【書き換えるべきOSの仕様の例】

- ◆均質性→「個性」：個別の空間が持つ質の重視
- ◆効率性→「効果」：当該空間がもたらす効果・効用を重視
- ◆コスト重視→「質重視」：空間の質的向上を目指す
- ◆利便性→「優先順位の評価方法」：多様な価値観を反映できる合意形成
- ◆日本基準→“Global Standard”：「違い」こそが価値に
- ◆KPI→文化・芸術重視：成熟都市の前提をいかに空間に反映させるか

# もはや「近代」ではないことを示す 論説

- 三谷太一郎（2017）「日本の近代とは何であったか」岩波新書
- サスキア・サッセン著、伊豫谷登士翁（監訳）「グローバル・シティ」（2008）ちくま学芸文庫
- マルクス・ガブリエル著、清水一浩訳「なぜ世界は存在しないのか」（2018）講談社選書メチエ

## 「近代」都市に関する多様な論説

- オギュスタン・ベルク著、篠田勝英訳「都市のコスモロジー」（1993）講談社現代新書
- ハンナ・アーレント著、志水速雄訳「人間の条件」（1994）ちくま学芸文庫
- イーファー・トゥアン著、山本浩訳「空間の経験」（1988）ちくま学芸文庫

# 2000 – 2020年の都市の変化

- 都市を取り巻く環境の変化により、実質的に空間そのものが「近代」の枠組みでは捉えられなくなっている
- 都市への人口集中の受け皿となった「郊外」は、欧米の概念としての理想の住まいに基づいていた（根本的な自然との対立、理念としての理想化、私的空間への偏重）
- 都市の発展と不可避な格差の拡大と地域（ローカル）の再評価
- AIの労働の補完による労働の消失、仕事、活動に対する比重の高まり

# 多様性とイノベーション

◆イノベーション：新たな組み合わせ、異なる視点からの新しい捉え方、新しい活用方法など

→多様性とイノベーションは切り離せない

→多様性のないところにイノベーションは生まれない（異種の組み合わせが出来ない）

（既に実践されている例）

✓コインランドリー＋カフェ

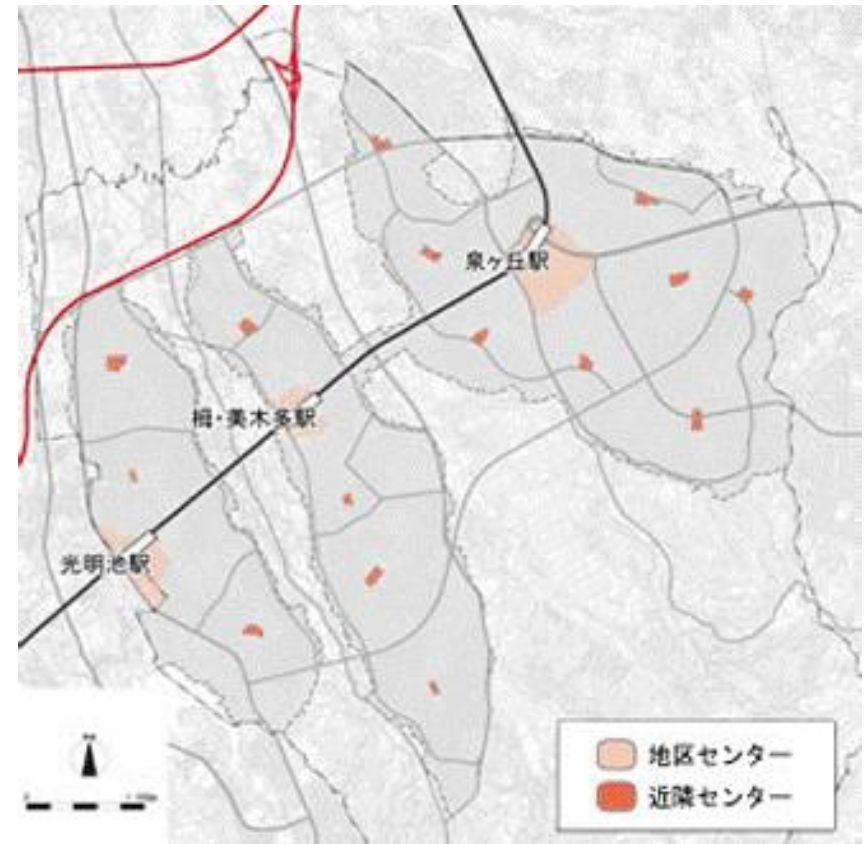
✓廃小学校＋レストラン＋宿泊施設

✓日常生活＋旅（民泊）

→純化を求めた近代都市計画制度に基づく空間において、多様性の確保やイノベーションの創造は容易ではない

# 効率的な住宅整備が必要とされた高度成長期

- 首都圏におけるニュータウンの開発
- 機能的な用途の配置
- 高い同質性（低い多様性）
- 約10年前から衰退への対策と再生への取り組みが模索中



引用：堺市（平成22年）泉北ニュータウン再生指針

# 都市計画の母：土地区画整理事業

多様性という観点から評価してみる

効率性、経済性（地価）のみを評価軸にしていると多様性は生まれない

- 効率性、経済性という評価軸があると、安全性はそこに飲み込まれやすい

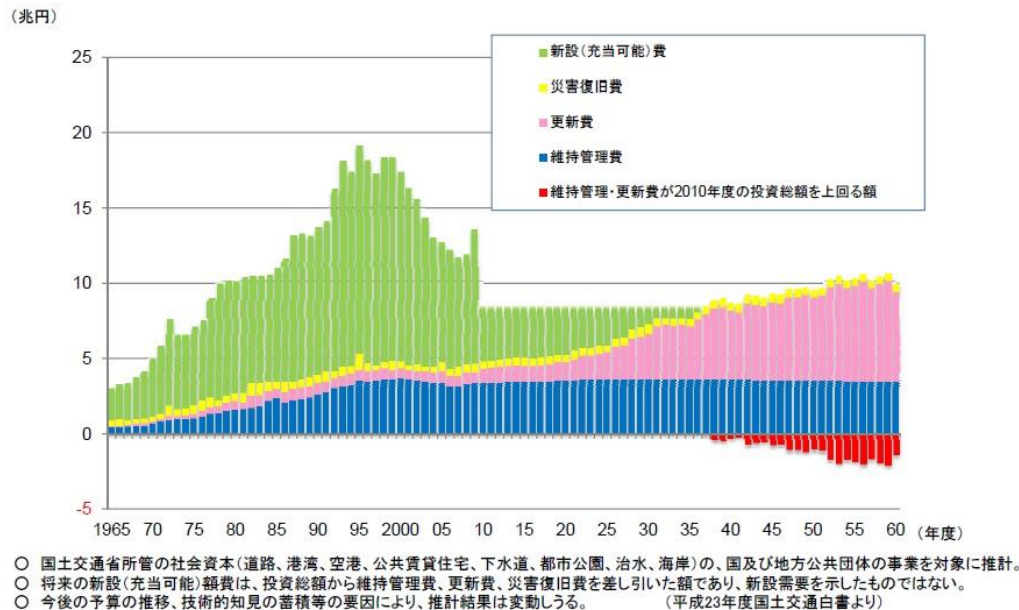
→都市に対する評価軸を増やす必要性

|   |         |
|---|---------|
|  | 区画道路    |
|  | 歩行者専用道路 |
|  | 公園・緑地   |
|  | 河川・水路   |
|  | 緑地帯     |
|  | 墓地      |
|  | 地下鉄     |



# 経年劣化する都市施設

- 標準設計と経年劣化
- 長寿命化：右下がりの曲線のカーブを緩やかにする発想
- 完成時が最も良い状態として設計される
- この結果、**経年に対する恐怖感**が生じる



引用元：国土交通省におけるコンパクトシティの取り組みについて（平成25年8月26日）



# 他地域と同等の施設の整備 高台移転事業

## 雄勝中心部地区拠点エリア



雄勝地区は、(仮称)雄勝中心部地区観光物産交流施設が先行して建設工事が着手し、公共施設、商業・観光施設、運動施設が一体となったまちの中心を再生します。



引用：市報いしのまき（平成30年12月1日号）





移転元地(低平地)  
効率的とはいえない作業、場所





# 多くの人を惹きつける（効率性≠空間の魅力）



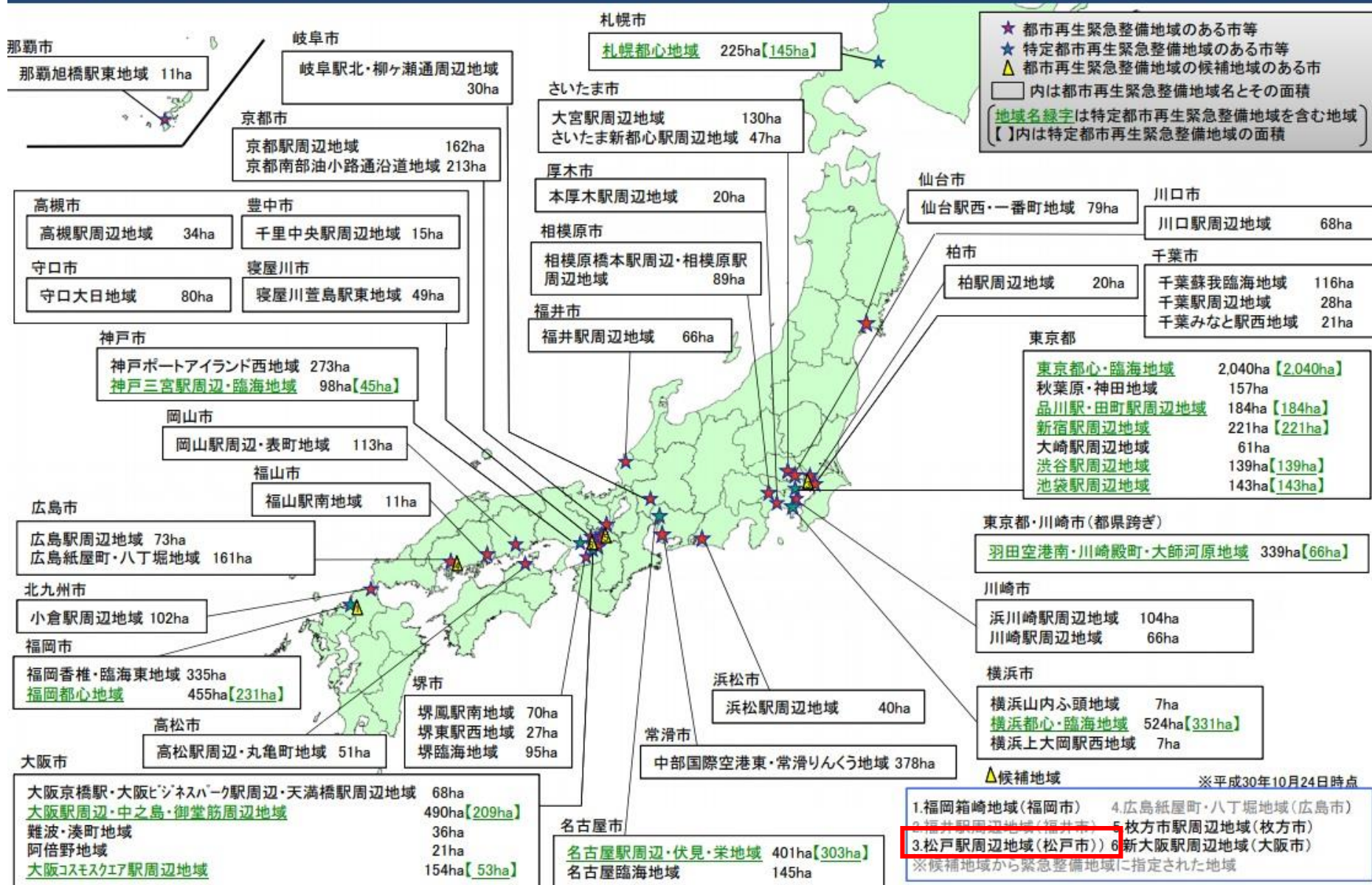
# 低平地のガーデンの特徴

- ヒューマンスケール
- 再現性不可能→記憶の継承
- 手作りの空間→時間の流れが遅く、何度でも手戻り可能
- 多くの人に関わる空間
- 完成がない
- 空間のマネジメントとは、完成時の状態に空間を維持するのではなく、空間を育てること（変化し続ける空間）



# 都市再生について

都市再生緊急整備地域 (55地域 9,092ha:うち特定都市再生緊急整備地域 13地域 4,110ha)



- 福岡箱崎地域 (福岡市)
  - 福井駅周辺地域 (福井市)
  - 松戸駅周辺地域 (松戸市)
  - 広島紙屋町・八丁堀地域 (広島市)
  - 枚方市駅周辺地域 (枚方市)
  - 新大阪駅周辺地域 (大阪市)
- ※候補地域から緊急整備地域に指定された地域



# 松戸駅周辺都市再生の方針

松戸駅周辺の将来像

## 都心3区と郊外を結ぶ新たな都市モデルの創出

1

### ●都市再生に取り組む基本的考え方

**都心3区への一極集中是正**  
日本全体で人口減少が進むが、都心3区への人口流入超過は依然として継続。首都直下型地震などの災害リスク軽減が喫緊の課題。

**都市への投資を促す質の高い都市再生**  
未来への発展基盤の準備・構築に向け、国民生活や経済の基盤である都市へ、いかに戦略的に、質の高い投資を呼び込むかが課題。

### ●都市再生基本方針

**質の高い生活のできる大都市**  
都市は経済活動の場であるとともに人々の生活の場であるため、国際的に質の高い生活環境の確保が重要。この際、特に大都市における企業等の集積のデメリットをできる限り抑制することが重要。

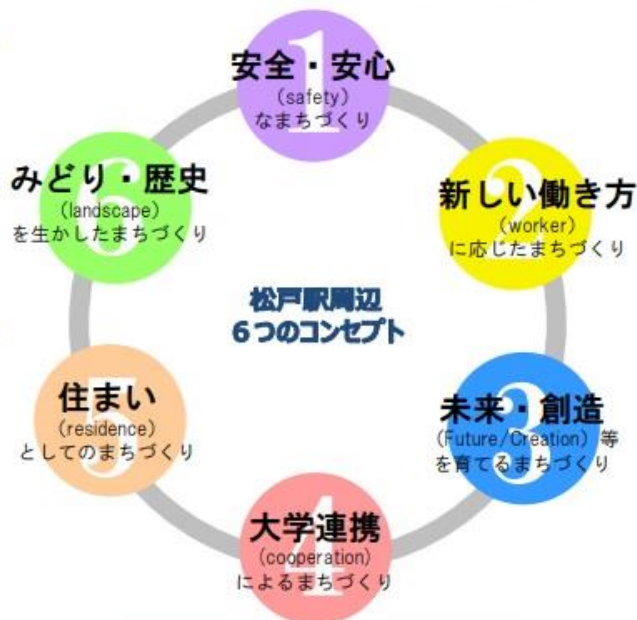
**災害に強い大都市**  
東日本大震災の経験から得られる教訓を踏まえ、大規模災害が発生した場合、甚大な人的・経済的被害等につながらないようにすること、また、都市機能を安定的に継続できるように配慮することが必要。

### ●現在の社会の潮流

**働き方改革によるライフスタイルの変**  
2000年代以降、都心部のライフスタイルは都郊外居住から、都心居住による職住近接へと近年、働き方改革の推進により、時間や場所、さえず柔軟に働ける環境整備が進みつつあり、今後のライフスタイルは大きな変化が予想される。

**高度外国人材の受け入れ**  
在留期間や活動内容等の優遇が得られる在留資格「高度専門職」の整備や「日本版高度外国人材グリーンカード」の創設など、経済成長等への貢献が期待される専門的知識、技術を持つ外国人の呼び込みが進む。

**「未来投資戦略2017」（平成29年6月9日閣議決定）**  
○KPI  
2020年末までに10,000人の高度外国人材認定を目指す。さらに、2022年末までに20,000人の高度外国人材認定を目指す。



## 「労働」「仕事」「活動」の実質的な変化に空間がどれだけ追いつけるか



- 1 大学連携による地域課題の解決**
  - 子育て支援に関する地域サポート人材の育成。
  - 市内4大学と地域社会の発展と人材の育成のための協定締結。
- 2 地形と緑の豊かさ、歴史的資源**
  - 高低差のコントラストが明瞭な地形構造。
  - 新拠点ゾーン開発に伴い、松戸中央公園の再整備(約1.8ha)を予定。
  - 旧松戸宿や坂川などの豊かな地域資源

### ●松戸市の上位計画

**松戸市都市計画マスタープラン（平成11年）**  
・本地域は古くから本市の中心であり、交通結節点としての利便性が高く、また現在も拠点としての機能が集積していることをふまえ、今後とも広域的な拠点として多様な活動と広域的な交流が可能になるよう、交通基盤の整備などを進めるとともに、松戸を代表する顔として、魅力ある都市空間を形成する。

**松戸駅周辺まちづくり基本構想（平成27年）**  
・区域を「新拠点ゾーン」「商業・業務ゾーン」「都心居住ゾーン」に区分するとともに、「シンボル軸」及び「水・歴史資源」を加えた5項目について、取り組みの方向性を整理。

**松戸市土地利用正化計画（平成30年）**  
・都市基盤整備と合わせて商業・業務・文化機能の集積を図るとともに、交通結節点機能の強化を図り、都市機能の更新を進め、回遊性の高いまちの形成を図る。

### ●松戸市のポテンシャル

- 1 防災性の向上**
  - 1日約30万人が利用する松戸駅は鉄道・駅の交通結節点。大規模災害発生時に都市機能の継続と滞留者等の安全を確保する防災拠点が求められる。
- 2 起業支援・企業育成**
  - サテライト/シェアオフィス誘致
    - 誘致・育成に向けたインキュベーション施設を整備中。交通利便性や潜在的に高い労働力は企業のサテライト設置ニーズを満たしている。
  - イティブシティの推進
    - アーティストやコンテンツ産業の誘致・育成支援。
    - コンテンツ事業者の立地、イベント展開。
- 3 外国人ワーカーの生活サポート**
  - 行政通訳による手続き支援や相談窓口の設置、日本語教室の開催。
- 4 多様な世代が暮らす住環境整備**
  - 都心隣接の住宅地として成長してきた良好な住環境。
  - 三世帯同居・近居世帯への補助支援及び空家活用。
- 5 就労（リカレント）支援**
  - 女性の就労を支援する窓口が整備。
  - 高学歴専業主婦比率が高く、潜在的労働力がある。
- 6 子育てサポートの充実**
  - 保育施設の充実や保育士手当て等、子育て環境が充実。「共働き子育てしやすい街ランキング2017」（全国編）1位。



# 松戸駅周辺の将来像

松戸の歴史や文化を継承しつつ、新たなビジネスやライフスタイルを創出するクリエイティブシティ

## 1 安全・安心 災害に強い都市基盤の整備

**広域的な防災拠点**  
 - 平時において1日30万人が利用する交通結節点であり、開発によりさらなる昼間人口の増加が予想されることから、災害発生時等の有事に備えてエネルギー供給による都市機能の維持と情報発信や滞在場所の確保による帰宅困難者の安全確保に取り組む。

## 新しい働き方 松戸型職住近接スタイルの実現

**働き方の自由度を高めるサテライト/シェアオフィス拠点**  
 - 都心と郊外を結ぶ結節点である松戸駅周辺に都心オフィスのサテライトを誘致。都心ワーカーの通勤時間短縮によるプライベート時間の充実や子育て中の女性も働きやすい環境づくり。



キッズベース付シェアオフィス「RYOZAN PARK 大塚」(出典：東京都創業NET HP)

**アクティブシニアの雇用創出**  
 - エリアマネジメントによるまちの維持管理においては、健康維持や、やりがいにつながる環境づくりを推進し、アクティブシニアの雇用機会を創出。

**子育て世代の公私をサポートする支援機能**  
 - “小1の壁”の改善に向けたワーキングマザーの就労支援、学習塾と連携した放課後の居場所と新たな教育の場の創出。  
 - サテライトオフィスと連携し、自宅近接で働ける企業とのマッチングや就労支援により、潜在的な女性労働力を生かせる仕組みを構築。  
 - 子育てサポートの充実により、女性活躍企業の立地を推進。



明光キッズ (出典：明光キッズHP)



**外国人ファミリーの暮らしを**

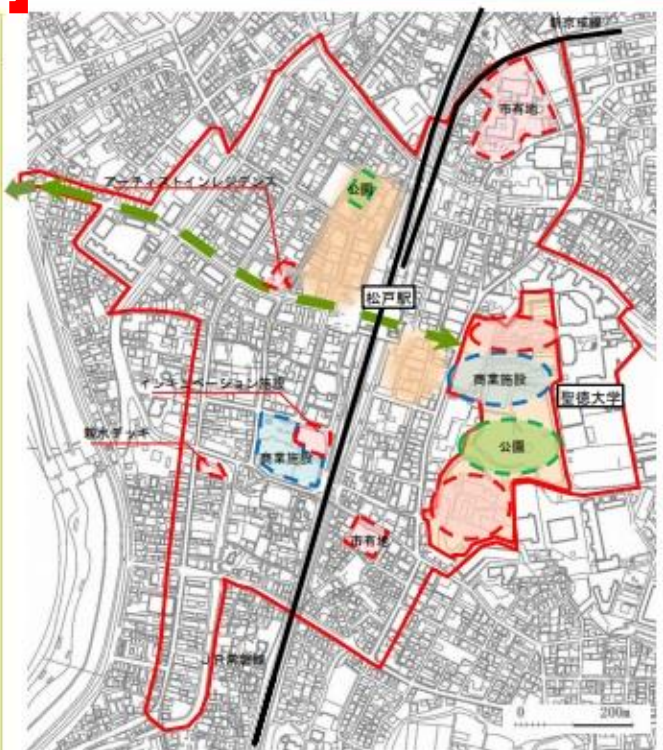
### トータルサポートする支援機能

- 外国人ファミリーに向けた多言語での情報提供や生活支援による言語バリアの解消。  
 - 外国人ワーカーが働きやすいビジネス環境、外国人子女への充実した教育サポート。  
 - 日本の文化や暮らしとの交流。

## 3 未来・創造 新たなビジネスを生むクリエイティブ拠点の形成

**成長産業が集積し、イノベーションを創出するビジネス環境**  
 - 海外アーティスト・クリエイターや、先端テクノロジーのスタートアップ企業、コンテンツ事業者に向けた、活動拠点の提供や創業・成長促進、企業とのマッチング等による包括的な支援。  
 - 異分野・異業種共創による新たなビジネス創出。  
 - クラウドファンディングを用いた空き店舗等の活用により地域を活性化。

品川産業支援交流施設 SHIP (出典：SHIP HP)



## 先端カルチャーを発信するイベント展開

- 松戸に集まるクリエイターや成長企業の異業種コラボイベントを開催し、国内外へ新しいカルチャーを発信。  
 - コンテンツ産業が集積する渋谷・原宿周辺(千代田線)やJOBANアートライン(常磐線)等の鉄道沿線のつながりを生かし、クリエイティブシティとしての拠点性を強化。



科学と芸術の丘2018 (出典：松戸市文化観光国際課)

## 4 大学連携 大学発のビジネス創出と人材確保

### 地域のシンクタンク機能の形成

- 地域の抱える課題を産官学連携で解決していくシンクタンクとして市内4大学とのネットワーク体制を強化。専門的な知識やノウハウを生かした課題解決型の人材育成や先端技術等による大学発ベンチャー、産業支援等の新たなビジネス創出。

## 5 住まい 子育て世代や外国人ファミリーに選ばれる住まい

### 多様な人々が暮らしやすい環境整備

- 市庁舎跡地や文化施設跡地を活用し、子育て世代のファーストステップとなる駅に近接した賃貸住宅などによる定住促進。  
 - 外国人ファミリーも住みやすく、暮らしやすい環境づくり。

## みどり・歴史 公園や地域資源を活用したにぎわいの創出

### パークマネジメントの展開

- にぎわいを生む、アーティストや先端カルチャー等のイベント開催  
 - 新拠点ゾーンに整備される商業・業務・文化機能をつなぐHUBとして公園施設を整備し、回遊性とにぎわいを創出。



南池袋公園

### 地域資源を活用し、歴史や文化を次世代に伝える拠点形成

- 旧松戸宿に残る歴史的景観や坂川周辺の自然、寺社建造物といった地域資源を生かし、文化やみどりを感じられる街並みを創出。  
 - かつて千葉大学工学部が立地し、デザイン教育のほりとして日本の工業デザインを支えてきたDNAを次世代に伝える。



## 新拠点ゾーンから江戸川までのスムーズなアクセス

### 東西自由通路の利便性向上

- ・松戸駅の東西結節機能を強化するため、改札外コンコースと自由通路を結合し、利用しやすい改札外通路を整備（予定）

### 駅から周辺施設へのアクセス強化

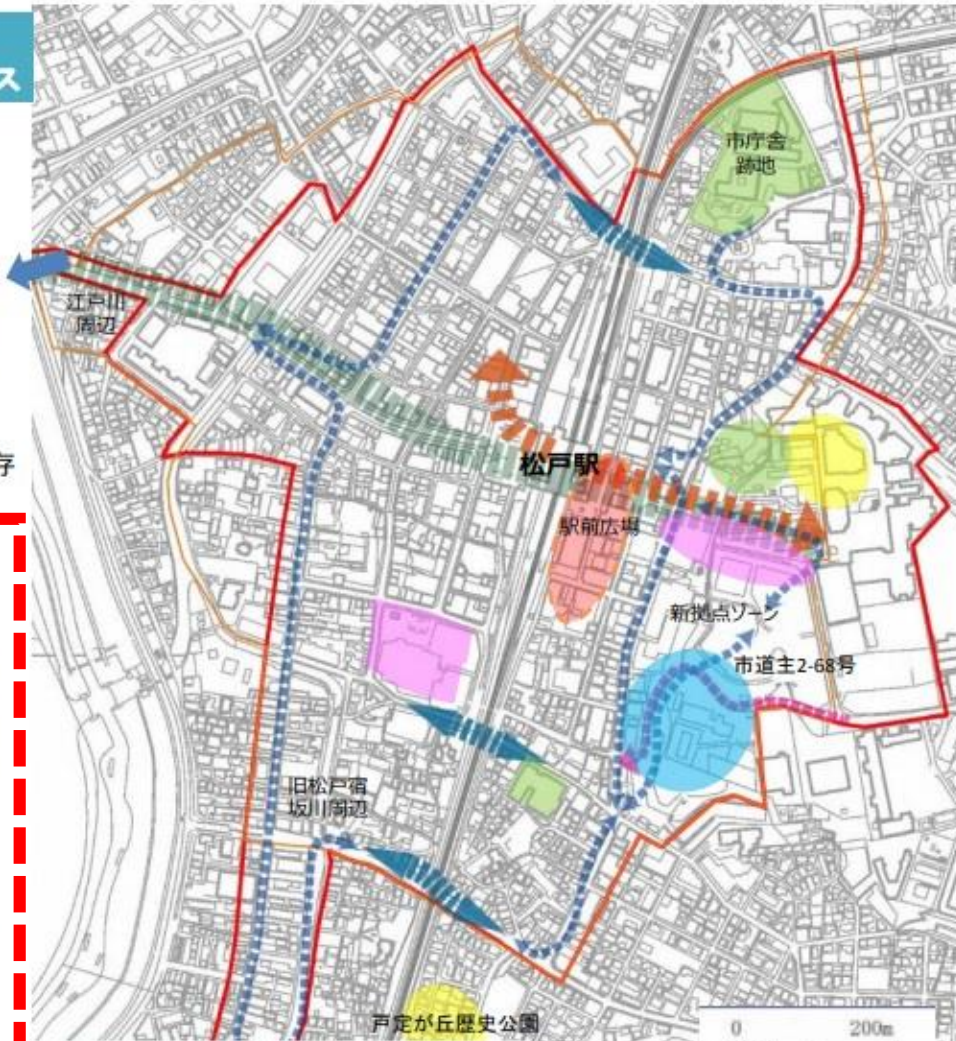
- ・東口から新拠点ゾーンへの歩行者アクセスを改善するため、再開発とあわせて歩行者デッキ及びエスカレーターを整備
- ・西口から周辺建物への歩行者のアクセスを改善するため、西口の再開発とあわせ、既存デッキを延伸

＜東口デッキイメージ＞



### シンボル軸の景観形成

- ・新拠点ゾーンと江戸川をつなぐ地域の中心軸にふさわしい景観を形成するため、沿道建物の形態、色彩などを誘導



※あくまでもイメージであり、決定したものではありません。



## 松戸駅東口の交通利便性の改善

### 交通結節機能の強化

- ・鉄道やバスなど各交通機関への円滑な乗換えを目指し、将来の市街地整備に見合う東口駅前広場を整備
- ・東口駅前広場とあわせて、バスターミナル及び自転車駐車を整備

### 新拠点ゾーンへのアクセス強化

- ・市道主2-68号から新拠点ゾーンまでの道路拡幅及び国道6号の交差点を改良
- ・駐車場整備とあわせた歩行者のバリアフリー動線の確保

### 歩行者ネットワークの向上

- ・東西の回遊性向上に向けて、区域の南側と北側の3か所にバリアフリー化された歩行者用の東西連絡橋を整備
- ・多くの観光客が訪れる戸定が丘歴史公園への歩行者環境向上



# 都市再生緊急整備地域における 新しい都市計画の実現可能性

- 都市計画の基本OSが変わらないので多様性やイノベーションはあくまでも都市再生における「味付け」になる
- 「味付け」からOSの変更にどこまで到達可能か
- 掛け合わせ、新しい解釈、新しい活用方法を都市計画のイノベーションとして、都市再生事業にどのように導入できるか